磐城新聞
（三十日夕刊）
休刊　大祭第一第三日曜
定價〔一壺枚二錢、壺ケ月一五十錢、郵税十錢〕
廣告料二行平錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

顧問の茂庭博士が擴張案内容説明

十四吋管と十六吋管の工事費を比較

平町上水道擴張委員會は既報の如く廿八日午後一時から水道課樓上に於いて開會したが同席上平町上水道部顧問我國水道界の泰斗茂庭博士が説明したる擴張工事計劃内容は大体次の如きものである、即ち第回の委員會に於いて問題となつた水道管は擴張に依り十六吋管採用の良否及び十六吋管を採用すべき理由に就いて同博士の説明は

『十六吋管を選定した理由は現在使用中の十吋管を擴張するには十二吋十四吋、十六インチの三管があるが十二インチ管は現在使用中の十インチ管と大差なく擴張の目的に添はない爲め比較する必要を認めない依つて十四インチ十六インチ兩管に對して比較研究すれば十四インチ管は毎秒二個九分、十六インチは毎秒四個三分の通水量即ち毎秒一個三分　差を有し現在の擴張案に依れば十四インチ管を採用するも充分であるが再度擴張の要に迫られる場合を考へあすれば十六インチ管採用して置けば五萬餘圓の經費を節約し得更に此れ・工　費は十六インチ管です　爲メ一に僅に八千五百圓を増加するのみ・此の中國庫並縣よりの補助金を入れゝば町の負擔する處は僅に四千七百圓・小差に依つて充分何を苦んで僅五千圓を輕減し再度擴張の要があるか』と言ふにある

戸數割賦課　町會本會議

委員會案を可決々定す

平町今年度特別税戸數割賦課額に就いては過般來全員委員となつて各町別の精細調査中であつたが昨廿九日を以つて委員會案全部決定を見たので昨廿一午後二時から本會議開會し提案に對す　委員會　修正案は少範圍に止まり萬場異議なく各町別の修正委員會を可決々定した

米共同販賣

大浦農業倉庫で

石城郡大浦村農會では昨年十二月以降毎月一回米穀共同販賣斡旋を實施して來たが成績大に見るべきものがあり更に本年度も十二月以降毎月一日、十五日の二回に亘り同村農會倉庫に於て共同販賣を實施する事になつた斡旋米は會津生産最優等以入四斗俵である

江同漁港　築港運動

町長町議躍起

石城郡江名濱町永年の懸案である江名濱漁港修築問題に就き地元江名濱町には縣當局に陳情の目的を以つて促進運動を行つてゐるが二月八日河野町長外町議一同は鈴木、古川縣議を歴訪陳情に努めた

此際收益税の徴收は猶豫の特例はない

地方經濟界の現況に鑑みて　平税務署が腐心

銀行の休業により年末を控へた各納税組合關係者がひ千六百圓中その二分の一以上を占むる九千九百十一圓八十六錢はこゝ〆　平税務署管内今期分の約一萬八千の納期に相當してゐる今月が納期に相當してゐる營業收益税、資本利子税、雜地畑租の内收益税は平税務署當局が農村向上の第一手段として盛んに地方農村・副業奬勵に努めてゐる結果數年來當地方農村に副業熱の驚くべき勢で發展した廿三日來平町及神谷村に開催中であつた園藝品副業品の二大共進會に出品した郡内生産　各種副業品中の地方生産品とは思はれない程の好成績を示し多大の賞讃を博したが郡農會當局では今後も一層　努力を以つて副業の奬勵に努め名實共に東北のデンマーク・理想郷を建設すべく目下來年度の新規事業副業奬勵並に指導法の改善其の他を計畫中である

副業奬勵法改善

名實伴ふ理想郷建設を　郡農會が計畫

郡農會の創立事務所は今まで元郡役所内に設置して事務を採りつゝあつたが愈々募株を好成績に終了し基礎工事も出來上り去る廿三日來平町及神谷村の開催中であつた園藝品副業品の二大共進會に出品した郡内生産　各種副業品中の地方生産品とは思はれない程の好成績を示し多大の賞讃を博したが郡農會當局では今後も一層　努力を以つて副業の奬勵に努め名實共に東北のデンマーク・理想郷を建設すべく目下來年度の新規事業副業奬勵並に指導法の改善其の他を計畫中である

片倉事務所　本日移轉

支店内に

平町字月見町に建設する片倉製糸株式會社、製糸工場

讀者欄

戀愛至上主義

國精上人

男は強き女なり、されど女人の前には弱き者なり、女は弱き者なり、されど男の前には強き者なり、男は常に女に動かされる。犯罪の裏に女あり、大亂の背後には女あるを見れば天下沿々乎として男下長先生の多き世界なるべし。

戀ゆえんか、金に行かんか、蓋し女たるや得ざる虞とする迷はざるべからざる甲は財産家の息子なるが男振り惡、乙は美男子なれど財産なし、少女はいづれを嫁せんかと迷ふ事終日、遂にその母に告げて曰く「貴方は即ち甲家に行きて喰ひ夜は即ち乙家に行きて寢む」と、これ天下一の名案、二八の少女よゝ考へたりなと

女姓　節も尊ぶべきは貞操なり、貞操なき女は遂に豚小屋の豚有と相距　事遠からず、由來日本の女性は貞操を以て世界に鳴る、「露は焉んぞ慨嘆に堪へんや。

頃來モガと稱する者自ら滿れんことを希ひ、濡れし光榮とし誇りとせるが如き風潮あり聞くに至つて焉んぞ慨嘆に堪へんや。

「君寝やうか五千石取ろか、何の五千石君と寝よ」と戀愛至上主義を吐きし俠妓ありき　敢て問ふ、こ意味ある者現代の女性に幾人かある——。（つゞく）

慕末秘帖　狂怒乱心

（102）　渡邊　默禪作　宮野　歌春畫

六郷の渡で與平と出會した時は流石に意外に感じた自分よりも先方の驚愕が強親しみ深き仲にても手間どり話の運ばぬ日四緣迷ひに閉ざされて進退に苦しむ日心を起さず家業大事に勵み口舌も注意▲七赤　動搖その眞と女房とが自分の成防ぎ前に出づるより後大切にすべし▲八白　出入りは多けれども手に止まる者は至つて少し▲九紫　多少の勞はあるも有終の利德ある吉日なり

講談

かつたことは、その擧動で十分に看て取られた。二人の間に交換された言葉と云つても、唯一言か二言意をつくさず、して匆々に別れたが、それが却つて幸ひであると思つた。是が舟でなければ直取捉まる捉つて種々な話を仕懸けられる、煩しくして且つ迷惑な思をせねばならず、殊に自分　帶びた機密がそんなことから洩れぬとも測られぬ、然るにその難儀ぐ舟　救つて呉れた。間ひ知い時はこんなものかと、獨りで微笑まれるのであつた。

婦女を弄んで自ら快とするやうな男であらぬ、まして義理のある部屋頭　娘、一時の不道化心に夫婦約束まで爲る理はないと本心からに君を愛し生涯を契るべく許したものと見なけれ宜しく——と言つた。通り一遍の世辭と見れば、さして怪しむにも當らぬ。與平は雪江の伴をしつくさず、して匆々に別れた者、雪江は自分が救つてやつた女、その伴をした老人に遇つて先から言をかけられたから、默つてもゐられず、ひよいと雪江の事が胸にうかんだまゝ、宜しく捨せりふをかけたゞけである、と辯解すれば成程とうなづかれもする。併しなきた君をすら、忘れてゐる程の男が特別に雪江の名を覺えて、こんな匆卒の際に騙らず、宜しくと愛嬌を振りかけたゞが頗る怪しいた世辭や追從は彼の柄にないのである。柄にないお世辭が如何して出たか、いづれも研究を要すべき問題なるべく許したものと見なけだ。

ればならぬ。

それならば何故新徴組に加盟したことを、お君と其の親へ知らぬのか、音五郎は世話になつた、親分でしかも男に當る人、た君は二の上洛に先立つこと半月ばかり。

梅は先づ三條小橋の山城屋といふ小さき旅籠屋に草鞋を脱いだ。翌日は朝飯が濟むと直ぐに出掛けた、市中を見物がてら藥を買廻るやうに粧つて、その實は或る人の擧動偵察、一々尾行して注意の眼を張つてゐたのである。或る人とは誰？

梅に後を尾けられて人は誰でもない高橋伊勢守の義弟に當る山岡鐵舟である。

助郷馬の背に振分荷物の雨と晴花かすむ驛路、柳けるる渡場を十日が程に過ぎて東海道を京都に着したのは、文久三年の春、新徴組の上洛に先立つこと半月ばかり。

七濱の漁況

サンマは打切り

石城の七濱にける漁業者は何れも去る二十五日秋刀魚漁を打切り手繰網に乘り替へたが本年の秋刀魚漁は最高一隻二萬圓最低三千圓内外で總額納四十萬圓の漁獲高であるとなほ水産試驗場の磐城丸は目下金華山沖合に出動鮪群探檢中である

たましい

石黑一郎

三年も前のこの秋にいつかわ知つた若き血の流れも止まるよどめきをされど一年ふたとせの此の秋なればひとりの淋しく泣く夜となりぬし

默つてそうと庭かげの土にうずめた悲しみを

また此の頃わほり返しそこに祈りてまた泣いて一つのたましい行くとも

失せて淑しく歌書きぬ

明日の吉凶

舊十月十二日　新月　暦九月一日

▲一白　他に牽制せらるゝ事なく進み得らるゝ日▲二黑　運氣弱なるを以て慎む事は控すべし▲三碧　着々進行して來たので今日平町字南町の片倉製糸會社の出張所に移轉した

診療時間　夜
胃腸　内科　指二十　腸虫病　専門部内科
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　専門部外科
平南町　病利本店　電話七〇一

預金の賣買を致します
▽賣買の手續は無料で致します
平町仲田町
駒場株式店
電話四六五番

コボマカ
原料精選——品質佳良
特別廉價——配達迅速
多少に抱はらず御用命願上げます
電話八二七番
鮮魚仕出　吉田かまぼこ店
平町田町大通り

平町田町
高久病院
電話五〇三番
醫學士　高久忠清
新潟醫學士　赤羽
藥劑士　佐竹菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

蜂ブドー酒
歡待……
先づ　爽むるに蜂ブドー酒の一杯を以てその美味と滋養……賓客を饗應すに最も意義深きもの！
株式會社　近藤利兵衛商店
「蜂印ブドー酒」といふ名稱を貴殿のお奬めに依り　且は時勢の推移に鑑み、今後「蜂ブドー酒」と改めます　なほ市場にある從來のものは其儘として　御安心の上引續き御愛飲を願ひます

平署移轉後の敷地跡を廣小路に

町内有力者が叫合して 愈々積極的運動

平警察署では狹隘のため明年から南町裡から為郡役所廳舍に移轉すると共に現在の紺屋町なる敷地三百四十二坪及建て物二階本館その他建て坪百十八坪は總額三萬七千五百五十圓で賣却することになつたが此れより先平署の移轉を見越し平町市内交通路の中心地で自動車は勿論一般通行人車馬の交通最第一位に位してゐる一丁目本通り紺屋町通り才槌小路、鍛冶町、堂の前通りの十字路分岐點に位してゐる爲め町内有識者は該警察署敷地跡の拂下げをうけて一大廣小路を設け交通の繁激を緩和せんと寄々協議を進め既に此れが實現を期す爲め縣當局に對し側面運動を開始してゐた折柄の事なので縣が前記の如く賣却決定の上は平町よりの拂下げ出願は容易に通過の見込みなく紺屋町一丁目其の他町内有識者間には愈々積極的猛運動を開始せんとして着々準備を進めてゐる

平驛員の慰安浴場

來月中に竣成

平驛では從業員の慰安のため平町字白銀町鐵道倶樂部脇に敷地十五坪工費約く三千七百圓を以て廣大なる浴場を建設すべく目下盛んに建築中であるが來月十五日までには竣成する見込である

貝泊村の官行製炭

愈々斷行と決定か

事業反對關係者 極度に大狼狽

平營林署が本郡貝泊村に官行製炭事業開始の計劃を有する旨を一度巷間に宣傳するや郡南當業者 死活問題として民業製炭に業の大恐慌であると言ふの二區方部民は勿論管三本炭局業組合は全力 舉げて此れ阻止せられ、其の後も兒童と映畫の問題に絶ゑず悩まされる書に依つて研究せられるが、此の兒童に對する映畫制限設定の成績がどうしてもうまく行かないとしたら、之は非常な

悲觀

論とあるが或は普通常設館の興行プログラム中の何割かに於いて純粋に兒童を標準としたものを必ず含ませねばならぬ樣に法律的に決めて了よの樣

研究講座

映畫の及す善惡

大井川喜堂

最近では兒童映畫デーなども設定せられ、相當な効果は舉げ得てゐますし、各方面で教育映畫の製作も行はれて居りますが、今までの狀態の儘で

押し

進んで行つ日には、或はフイルム製作者乃至興行者側の經濟的關係から何時危機に瀕しないとも限らない、さきに大正六年から九年にかけて一時試みられた乙種映畫は種々續行出來ない理由がまく

本紙既報の如くであるが其の後計劃中止運動奏効したものと觀てか反對運動關係者は幾分樂觀の形であつたが其の内面に於いては主務省に於いては最初の計劃通り來年度から本業開始に方針で秘密裡に各種の調査を進めてゐた結果突如平營林署長は昨廿八日出京主務省に出頭し何等かの秘命を授けられる處あつたものの如くで伏聞するに貝泊村の官行製炭事業は來年度より模樣である尚濱三木炭同業組合を中心とする反對運動關係者は萬一の場合に備へ

爲め既に縣當局に對して反對陳情中であつたが愈々事業開始決定を觀られるに至つた今日最後の手段として縣當局を動し中止陳情の外に路がないとの意見から現在濱三郡内民業製炭業者と官行製炭事業の狀況を比較し其に同問題が郡南當業者の死活に關する重大問題であると言ふ一點で全力を擧げて最後の猛運動を繼續する事に決定近く詳細の狀況調査を作成し反對運動幹部數名の出縣する事となつたが現下の狀勢は事業開始節行の氣配漸次濃厚となつてゐる

安いにも高いにも米は買手が無い

年末決算を控いて 苦しい農家經濟

石城郡地方の産米は昨今漸く出廻期となりそれ〴〵取り引を始めたが現在の取り引相場は四斗入一俵・圓三四十錢見當で、之を昨年取り引相場と

比較して

見ると一俵について一圓四、五十錢方の安値である、而も斯く如く安値であるにも拘らず取り引は殆と絶無と言つ

石城郡地方の産米は昨今漸く出廻期となりそれ〴〵取り引を始めたが現在の取り引相場は四斗入一俵・圓三四十錢見當で、之を昨年取り引相場と

比較して

見ると一俵について一圓四、五十錢方の安値である、而も斯く如く安値であるにも拘らず取り引は殆と絶無と言つた狀態 大浦村、勿來町、錦村方面からは穀物檢査所出張等であるが、石城地方の狀況から見て地方産米や地方に於て消化する事は極めて至難で取り引き所や支所並に郡農會では對策を講じつゝあるが現在の産米が販賣不能では農家の困難はこれからこの際販路

周旋をして貰ひたいと申し込んで來てゐる、この取り引が安値を示すに至つて直接原因と見られるのは昨年が豊作で持米が多かつた事と、一ケ月後八千俵以上

消費して

ゐた磐城炭礦が購買制度の變つて石城地方産米を消費しなくなつた事等であるが平均俵八九圓に手放さねばならない苦しい狀態を見て穀物檢査所や支所並に郡農會では對策を講じつゝあるが現在の石城地方の狀況から見て地方産米や地方に於て消化する事は極めて至難で取り敢

平驛貨物取扱所に於ける今月中の柿出荷噸數は小口扱六十八噸特別小口六噸貨切扱二百六十噸合計三百三十四噸の多きに達し此れを前年同期に比較すれば約前年の六倍以上の大激增であるが出向先は東京、大阪方面で産地は高久村夏井村方面を筆頭に

平驛からの柿出荷は

前年の約二倍

東京大阪方面に

他産米販賣關係者が網羅した一大協議會を開き販路の擴張について協議をなす中であるが實際歳末の決算期を控へ石城郡地方農家は四苦八苦の悲慘な狀態に置かれてゐる

平驛員の

慰安浴場

來月中に竣成

平驛では從業員の慰安のため平町字白銀町鐵道倶樂部脇に敷地十五坪工費約く三千七百圓を以て廣大なる浴場を建設すべく目下盛んに建築中であるが來月十五日までには竣成する見込である

不景氣をよそに新規會社が續出

片倉製糸と平魚市場

石城の皮肉な現象

石城地方に於ける財界は一般的不況と地方的な特殊の打撃が連續したに拘らず本年下期に於て新設會社創立の計劃が各方面に行はれ何れも相當の成績を擧げつゝある奇現を呈してゐる。即ち、製糸王片倉組の石城地方民との計劃した磐城製糸株式會社（公稱資本金二百萬圓）を筆頭に玉川水力電株式會社（公稱資本金七十五萬圓）等が主なるものにして、磐城製糸は當初片倉組が二萬株、地方民が二萬株等を所有する方針の處地方に於ける募株が案外不結果に終りたるも片倉組にて殘餘の株金部を所有する

平町附近全町村に亘つてゐる

電車線路で

職工轢死

汽車と電車を感違ひして

石城郡内郷村大字宮字蛭子地内の磐城炭礦用電車線路に炭殻籠を背負つた坑夫体の轢死体があるのを廿九日夜同炭礦電車運轉手坂本豊次が發見したので平署係員が急行檢視したが同轢死体は福島縣信夫郡平野村大字平塚字城内二二當時石城郡内郷村大字宮字瀧居住磐城炭礦職工伊藤得四郎（三三）と鑑定し同人は鐵道線路を歩行し年同期に比較すれば約前年て來たが前方から電車の來同期に比較すれば約二倍以進して來たのを汽車と感違して電車線路内に除けたのは東京、大阪方面の産地は高久村夏井村方面を筆頭に

石城郡四倉町字新町三七額賀毅

妻平町字四丁目三七阿部チヨ子

△死亡

△平町字仲間町六九　川上熊四郎（三十日）

△平町舊城跡鐵道官舍　曳地秀子（二十九日）

△出生

△平町字田町五　横内直候三男直典（十四日）

▽婚姻

△石城郡四倉町字新町三七

女給の顔の爭奪

年の瀬の平の洋食屋に

猪狩署長から諭告

平町各所に散在してゐる幾多のカフエー、バー等が殆と競爭的に奇麗な女給の首を揃へては野郎客の吸集に牲となつた女給等の間には風紀を亂すものが現

訂正　昨本紙上に「ノンキな父さん燒ける」と題する記事中活動常設館平館とあるは中劇場の誤植

はれ平署當局では此の取締には少からず手を焦いてゐたが歳末の書き入時が近付くに從つて昨今各當業者間に漸く女給の爭奪戦が開始され此れに伴ふ、さこさや風紀も著しく亂れ出したので近く平署では管内全部の洋食屋さんを本署に招致し猪狩署長から嚴重な訓示を與へる筈である

控へてゐるだけに休銀に伴ふ必然の結果として無理算段の現金取ひきその他この方面の空氣頓に慌しいものがこの傾向はひとり休業或は支拂制限銀行の所在地たる平四倉方面のみに止まらず過般平銀の休業直後にあつては取引關係その他これに内容を異にしてゐる郡菊田方部にも若干の運動を生じ植田町所在の磐東銀行も如きたとへ未だ以て數字的に示す底のものに非ざりしとするも　銀　休業直後一兩日間に亘り多少の引出しを見たるも右は預金者の不安一原因するものと觀るよりは寧ろ平方面の金融梗塞に基く當然の結果と見るべかりし節より殊に同行にあいては苟も取引先に同等から不安のりとすれば この際これを一掃する義務ありとし當座の預金は勿論稀には定期の引出しに對しとさへ快くその希望を容れた時で彼此一般人心の平靜に歸する事も早く最近の菊田方部金融は殆んど平常となる處なく今や米蒟蒻等の出廻り期に直面し順調なる放資が行はれつゝある

嬉しい師走の氣分

殊に順調な郡南方部一帯

平町を中心とした最近の金融界は休業銀行の蘇生が漸次好轉曙光を認めながらも目前に節季師走の受難季を

平救世軍のクリスマス

大規模に行ふ

平町救世軍小隊のクリスマス祭は從來救世軍の關係者にのみよりて行はれて來かつ來任せる日下少校の趣旨としては單にクルスマス祭は救世軍の祭事にあらずして一般信徒を網羅して行ふべきものなるを主張し本年は其所請に基き一般のクリスマス祭を大規模に行はんと諸般の準備に取かゝつてゐるが祭場も從來の小隊集會所にして狹隘を感ずるので元郡役所　會議室に變更される事となつたと

小名組合總會

小名濱町漁業組合では廿八日午後一時から同事務所内に秋期總會を開催明年度の豫算事業方法等の協議を爲した

平町人事

△死亡

△平町字仲間町六九　川上熊四郎（三十日）

△平町舊城跡鐵道官舍　曳地秀子（二十九日）

△出生

△平町字田町五　横内直候三男直典（十四日）

▽婚姻

△石城郡四倉町字新町三七額賀毅

妻平町字四丁目三七阿部チヨ子

悲劇

男は無情

五人の幼兒を拘へて 湯本から福島へ

石城郡湯本町入山炭礦後山たゝめ茂と貧兄が福島にゐるのを頼り同夜福島に來たもので同女は臨月の上に五人の子供もまも如何ともなりへながら十才の子を頭に五人の平女を伴ひ福島署人事相談所を訪れ救濟方を願ひ出たが同女は内縁の夫佐藤茂（三二）との間に五人の子滑吉といひ同地方では大きな蒲鉾店なので事情を聞かせたところ快く六名を養育する事となり同夜から温かい床に寝たきする事となつ

となり既に上地の買收契約を履行を終つたから本年中には創立總會を了じて來年早々工事に着手する豫定に進行した小玉川水力は公募株はこれ又不成績であつた

か殘株は發起人側にて引受げ更らに魚市場は資本金が現を見て創立總會を了じ來年小額な關係上早くもその實月七日頃開業の手筈である

御禮

天中軒友月を招ぎ聚樂館に於て浪花節興業に際しては絶大なる御贔負を賜りました段誠に有難く紙上を以て厚く御禮申上げます

十一月二十五日

深谷倶樂部

深谷卯三郎

各位様

支那料理開店

華香ランチ……五十錢

御土産……五十錢

シウマイ折詰……

定食……壹圓より參圓迄

其他大勉强致し遠近に不拘即席御求めに應じます

南町舊郡役所通り（中の湯向ひ）

華香亭

電話（呼出）八二五番

内科

小兒科

皮膚科

花柳科

平町舊城跡（城山）

青沼醫院

醫學士　青沼淡夫

電話四〇三番

電燈より接續してすぐ寫る

家庭活動寫眞

パテーベビー活動寫眞機

映寫器　八〇、〇〇〇

撮影器　六五、〇〇〇

フヒルム　一本　二、〇〇　二、五〇

生フヒルム　一本　一、〇〇

市内は御ひして御覽に供します

御申越次第カタロークを進呈

平町二丁目

パテーベビー社代理店

西村屋藥舗

電話三番

營業種目

内地材

材木各種、羽柄材各種

建築諸材請負

礦山用坑木其他諸材請負

外材部

米松、米杉、大角製材調達請負　其他

佐藤材木店

常磐線平町新川町

電話三三五番

醸造元

清世界

石城小名濱町

清水屋

銘酒

各炭鑛御用達

小野晋平

電話六番